時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第三千二百三十三號
明治廿四年五月廿八日　木曜日
舊曆辛卯四月廿一日（甲、寅）
日出午前四時三十分　日入午後六時四十七分
月出午後十一時十七分　月入午前八時十一分
滿潮午前八時七分　午後八時三十一分
（西暦一千八百九十一年）

時事新報の石版附錄 板垣伯の肖像

曩に讀者投票の結果に因り時事新報の石版附錄と爲す可き板垣伯の肖像は本月中旬寫し取りたる伯の寫眞を本とし之を美麗なる石版畫となし來る六月八日の時事新報に添へて讀者に配布す

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セス其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ずる場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を申受く可し

時事新報

株式今後の運命は如何

近時經濟社會の狀況は每度本紙上に報道したる如く世上一般に不景氣の歎聲のみ高くして曾て回復の望みなく共凋衰萎縮の中にも株式市場の慘狀は又格別にして昨年來一日も活潑の賣買を見たることなく日增に不昧を加へて低落する其有樣は水の卑きに就くが如く今は底直の底に達して殆んど底止する所を知らず若しも此上不時の劇變に遇ふて今一段の下落を見ることもあらんには我國の工業は凡て瓦解破滅の外なしとて心あるものは痛心苦慮只管救治の策を求めて先づ夫迄の無事を祈るの外餘念なかりしに大津の凶變は端なくも市場の安寧を破りて更に不昧を增し僅か一兩日に諸株とも二圓方を突込みたれば左なきだに衰へ切たる市場の不幸は俗に云ふ泣面に蜂も啻ならず誠に見るに忍びざるの有樣なりき然るに爾後商勢頓に一變して人氣俄に加り反動の勢當るべからず品によりては四五圓方も上進して未來絕て見ざる盛況を呈したるにぞ買ふものも賣るものも只事の意外なるに驚くの外なく昨今の處は尙は多少の氣迷はあるものゝ兎に角に市場の光景は前日の寂寥に引換へ恰も死を起して生に回りたるが如し我輩は此局面に此吉相あるを見て直ちに工業前途の多望を期する者に非ず一昂一低は相場の常にして時に狂奔あるにあらざれば一時の商勢を見て敢て輕忽の判斷を下すにはあらざれども竊に臆測を逞ふするときは或は今度の變動は眞に氣運の到來して然るものにはあらざるかと思はるゝ處なきにあらず全體今の株式は如何なる邊に價格を保て然るべきや精密に標準の在る所を求めんとするは誠に至難の問題なるべしと雖も鐵道株の如き事業の確實にして少なくも五六分以上の配當を爲す可き株の價が遙に其拂込以下に喰入るとは之を世間の金利に照し公債證書の市價に對比して權衡を失するや爭ふ可らざるの數にして何れの點より見るも法外なる安直なりとは何人も許す處なれども其今日に至る迄權衡外に擯斥せられたるは畢竟此種の株式は株式自身に價なきにあらずして株主に富豪を得ざるが爲めのみ自身の力量に叶はざる重荷を擔て不相應の働を爲さんとすれば何時しか顚を生ずるは自然の結果にして遂には苦痛の餘に所有の株劵を投賣にすると同時に本人の信用は地に落ち又隨て其會社の評判をも害して市價の一低は一低每に世人を恐縮せしめて斯る法外なる安直を現したるものなるべし勢の然らしむる所人情の脆弱なる今日に處しては如何ともし難きに似たれ共搭て此下落は遂に回復の望なきやと云ふに素と是れ一時の波瀾に過ぎざれば其究極する所に至て早晩眞價を回復するよ經濟自然の結果にして其時期は蓋し金穴に株式を吸收するの日なり今や株式は二年有餘も自然淘汰の間に曝されて幾多の浮沈を重ね凋落するものは既に凋落して玉石の區別も漸く判然たる其の中に生存者の前途多望なるは最早疑あるべからずとて衆口等しく株式の安直を唱へて漸く富豪の着目する處となりたる一方には國家生產の爲め發達獎勵の要を說て救治策を工風する有力者も現るゝに至りたるなど世間の人氣は次第に株式に向ふの今日是ぞ即ち市價の最低を示したるものにして我輩は此の最低價のときに際し何故に金に不自由なき富人が逸早く濡手に粟の奇利を博せざるやを疑ひ居たるに果せるかな近來府下の富豪は漸く其買入れに着手して大坂東京兩市場に手を回したりとは市場に隱れもなき事實にして今は富豪も公然買入を明言して憚る處なしと云ふ左れば株式市場の數日來俄に活氣を添へたるも全く之れが爲めにして此一事は明に氣運の到來を證するに足る可し或は右の富豪とて全力を株劵に注ぎたるにあらず一萬なり二萬なり相應の買入を爲さば夫れにて手を止むることなるべく其買口の止むと同時に多少の浮沈もあることならんなれども其買入れたるものは再び市場に顯れざるのみか今後幾多の富豪も他の鑒に倣ひ各々私有の財產を株劵に移すは勢の當さに然るべき處にして其一變動は一變動每に價格を上進するみと春夏の交、一雨每に暖氣を催すが如くなるべしと信じて疑はざる所なり況んや日本銀行の邊にも金融整理救治の策を行ふの議を催ほして政府部內にも其議を賛するもの尠なからずと云へば此好時期に際して外より有力者の誘導するものあらんには案外回復の速なるに驚くこともあらんか兎に角今日の狀勢より推すときは株式の前途は深く憂ふるに足らざるべし

官報

○政府紙幣及銀行紙幣流通高　大藏省の調査に係る二十四年四月三十日より同五月一日へ越す政府紙幣及銀行紙幣流通高は五千六百七十一萬五千四百三十圓四十錢にして政府紙幣に於ては異動なし銀行紙幣に於て十一萬六千三百五十四圓を減ぜり其細別左の如し

種類		金額
政府紙幣	一圓以上	二四、二一三、二〇二、〇〇〇円
同	半圓以上五十錢以下	七、一五六、八六九、九〇〇
	小計	三一、[illegible]七〇、〇七一、九〇〇
銀行紙幣		二五、三四五、三五八、五〇〇
	總計	五六、七一五、四三〇、四〇〇
前月流通高ト比較減		一一六、三五四、〇〇〇
內譯		
政府紙幣		—
銀行紙幣		一一六、三五四、〇〇〇

○貨物積卸法律新設　香港に於ける日曜日貨物積卸に關する新法律發布の件に附き同港駐在帝國領事代理副領事宮川久次郎より本月十一日附を以て左の如く報告あり（外務省）

從來香港に於ては貨物積卸日に關しては別に法律規則の設なかりし故日曜日と雖も荷物の積卸自由なりしを以て船主及荷主に於ては殊に便利なりしも船員並に船問屋雇員等は之がため七日に一回の休暇を得る能はざるを歎き先頃沿海を航行する汽船乘組員等一同團結して一の協會を起し遂に法令を以て日曜日の貨物積卸を禁止せられんことを請願せしに知事も該請願の至當なるを認め一の法案を立法議會に提出せしが議會に於ては多少の修正を加へ可決せしを以て知事は本月六日之を公布せり但し此法令は本年八月一日より實施すと云ふ

新令に據れば日曜日に香港々內に於て貨物の積卸を爲さんとする船舶は豫め船政局の許可を得其手數料として左記の金額を納めざるべからず但し郵便物、旅客手荷物、生獸、氷及腐敗し易き食料品は此限にあらず

登簿噸數四百噸以下	七十五弗	
同　四百噸以上七百噸以下	百弗	
同　七百噸以上千噸以下	百二十五弗	
登簿噸數千噸以上千五百噸以下	百五十弗	
同　千五百噸以上二千噸以下	百七十五弗	
同　二千噸以上	二百弗	

此法令に違反したる船舶あれば該船々長（若し船長已に港を去りしときは該船舶取扱問屋又は荷主）に對し警察裁判所より即決裁判法を以て千弗以下の罰金に處し若し罰金を拂得ざるときは十四箇月以下の禁錮に處するまとに定めたり

○鐵道枕木に關する調査　北米合衆國農務省山林局長ファセル、トレートマンハ昨年調製の林務報告書中に鐵道枕木の代に鐵材を用ふるの必要なる所以を縷述し同國山林の濫伐を今に於て制止せざれば林樹の耗盡近きにあるべしと論せり氏の調査する所に據れば每年合衆國に於て伐採する林木は其生長する割合よりも多く年々既設鐵道のために要する枕木は六千萬本にして新設鐵道のために要する分も每年平均千三百萬本より尠からざるを以て此枕木を製するため無慮千三十萬立方メートルの林木を要す又橋梁架設のために要する木材も三百八十萬立方メートル餘なりとす故に每年四十萬五千エクタール（一エクタールは一町二十五步）許の林地に於ける樹木を伐採せざるべからずして竟に山林の伐盡を告ぐるに至るを免かれざるべし云々氏は最後に世界各國の鐵道に於て枕木の代に鐵材を用ふるの割合を示すため一表を調製し以て枕木を鐵材に改むるの利益を反覆切論せり即ち該表を轉載するまと左の如し

	枕木の代に鐵材を用ひたる鐵道延長（キロメートル）	鐵道總延長に對する百分比例
歐羅巴	一六、二九五	七、七
亞細亞	一四、九九七	四八、八
阿非利加	二、〇七八	二四、八
豪太剌利	三〇〇	一、八
南亞米利加及墨西其	六、〇九八	一九、五
北亞米利加	三	一

右表に示す如く北米合衆國鐵道の總延長は二十八萬四百五キロメートルを有するに拘らず枕木の代に鐵材を用ひたる分は僅に三キロメートルに過ぎず（本年四月九日獨國兵事新聞）

雜報

○軍艦發着　常備艦隊軍艦武藏高雄は一昨二十六日品海へ投錨橫須賀鎭守府所轄警備艦八重山は去る二十五日由良港へ投錨、同府練習艦天城は館山灣に向ひ橫須賀港拔錨、吳鎭守府所轄警備艦摩耶は一昨二十六日神戶港に向ひ橫須賀港を拔錨したり

○石碑代金幷損害要償事件の公判　原告芝區新堀町二十五番地庭川千之助代理人山口憲氏より被告同區仲門前町二丁目三番地二木治平、芝區執達吏栗福直の兩氏に係る石碑代金幷に損害要償の訴訟第二回公判は今二十八日東京地方裁判所にて開廷し證人として麻布區廣尾町明稱寺住職白山宗英師も出頭するよしあり

○海底電線專屬船の數　世界各地の間に連續せる海底電線の延長は益々增加するに隨ひ此電線の沈設及修繕等の工事を施すために備ふる船數も亦增加せり現に諸國に於て三百噸乃至五千噸の同船は總計三十八艘にして重に巨大の汽船なりとす就中最も大なるものは千八百六十六年大西洋を經て英國及び北米合衆國間連絡の海底電線を沈設したる大北電信會社の所有船なり前記三十八艘の中佛國は二艘、伊太利及び支那は各々該大船一艘を有す而して同船は概ね會社の所有に屬し殊に英國の會社に屬するもの過半を占むと云ふ

○諏訪長善館　信州諏訪郡の學生等が組織せる靑年會

（以下、欄外に切れた行）

にては府下
藩主よ
與し同郡內
繪圖を送ん
より前記の
したるを以
待して開館
○丸ノ內の
物は市區改
ひ下けを氣
龍ノ口邊す
れば諸官省
に夜分の如
は到底通行
城に接し居
しに此度之
先門外を於
中に向ひ往
○花菖蒲の
の途切れし
步行きぬ都
凡のものに
咲き出づる
に就て四季
一年或る人
けて女郞花
見に赴きた
判然あらざ
けば例年か
せしといふ
て堀切へ出
年柄に依
桃杯が不時
ずみの花の
其盛りも大
名花中にも
咲より枝咲
あれど前後
戶に在りて
みの花の本
の兩家にて
らが本家な
は武藏屋の
く水田を見
中の郷の賞
あく堀切に
園內に迂回
しありて種
小松嶋、園
百枝も庭上
め得べし愛
る風流才子
も數千株あ
らざる程な
本所向嶋の
戶あるを聞
て著名あり